

## 国内研修 株式会社 VALUE BOOKS

### 1,問題関心

2 年次以降どのような事柄を研究対象にしようか考えていた時に、土肥先生が VALUE BOOKS を研究していたことを知った。

電子書籍が流通し、書籍の売り上げが伸び悩んでいる今、古本に焦点を当て古本を通して世界を良くしようと活動している VALUE BOOKS の取り組みに興味を持った。

古本を通じてどのように地域とかかわっているのか調べたいと思った。

### 2,テーマと内容

今回のテーマは、

「古本を通じてどのように地域とかかわっているのか」

「VALUE BOOKS の真の企業コンセプトを考える」

実際に VALUE BOOKS が経営しているカフェ NABOなどを訪れ、地域にとってどのような役割を担っているのか調べる。

また、VALUE BOOKS はどのようなコンセプトのもと活動をしているのか考える。

### 3,調査対象と概要

VALUE BOOK は長野県上田市に本社がある。国内最大級である 183 万冊に及ぶ古本の在庫があり、社員は 15 人、アルバイトは約 300 人いる。主な事業は古本の買収と販売である。

現在では、古本の買収と販売の他に VALUE BOOK の仕組みとノウハウを生かした社会貢献活動を行っている。

#### (1) チャリボン

寄付により集められた本を、買収相当のお金に換えて社会へと還元する仕組みである。

寄付者により読み終わった書籍と DVD などを集めて換金し、さまざまな分野で社会的な課題解決をめざす団体に寄付している。

#### (2) ブックギフトプロジェクト

販売できなかった本を社会施設などに送る仕組みである。販売できなかった本の中から老人ホーム、児童施設、学校、病院など本を必要としている人のもとへ届けている。

今では長野県、東京都を中心に 40 か所を超える。

#### (3) NABO

2014 年年にオープンした VALUE BOOK 初の実店舗である。ここで VALUE BOOK のスタイルを確立し、伝えることができる実験の場と位置付けている。3 か月に一度のリニューアル、毎日のイベント開催などを行っている。

また、「くらもと古本市」をはじめ、異業種とのコラボレートによる本場のプロデュース、ブックディレクションなども行っている。

#### 4,調査結果

今回、取締役・准認定ファントレイザーである鳥居希さんに VALUE BOOK や本社のある上田市を案内していただいた。

##### (1) NABO

VALUE BOOK 初の実店舗である NABO はお茶をしながら本を楽しむことができる場所である。カフェのような雰囲気のある空間であるので、近隣の方々が集まり井戸端会議をしている光景をよく目にした。赤ちゃんをみんなで順番に抱っこしたり、海外から帰ってきた方が NABO に顔を出したらみんなでお帰りと声をかけたりと、地域の方々の距離の近さを感じた。まるで、お正月に実家に親戚の人たちが集まっているかのような光景だった。これが、近隣の方々で行われていてかつ、毎日のようにこのような空間ができているのかと考えると、不思議だった。NABO がどれだけ地域に馴染んでいて、根付いているのかがよく伝わる光景であった。

##### (2) VALUE BOOK の倉庫

この倉庫には、毎日多くの古本が届けられる。届けられた古本を査定し、その結果をお客様に報告する。お客様が納得されたら買い取り、倉庫に保存する。

##### ①倉庫の仕分け

この倉庫への保存の仕方に驚いた。本のジャンルや作者ごとに仕分けしているのではなく、売られた日付ごとに保存されていた。100 冊ごとの目安に冊数と売られた日付が付箋にかかれ、はられていた。この付箋を目印に従業員の方は本を探すようだ。

##### ②従業員との関係性

また、もう一つここで驚いたことは、社員である鳥居さんと従業員の方の距離が近いことである。私たちが倉庫内を見学させていただいている間、鳥居さんが通りかかった従業員の方とお話をされていた。その内容は、世間話であったり、従業員の方の家族の話であったり、VALUE BOOK の倉庫で働く方々のお話であったりと様々であった。

鳥居さんによると、取締役の方々には決まった場所にデスクがなく、毎日 VALUE BOOK 関連の場所に顔を出しさまざまな場所で仕事をしているそうだ。そのため倉庫にも来る機会が多く、従業員の方と一緒にランチをしたり、話をしたりしながら積極的にコミュニケーションをとっているそうだ。

従業員の方とコミュニケーションをとる中で、従業員の方の生活状況はどうなっている

のか、マネージャーとコミュニケーションは取れているか、などに注意しながら話をするようだ。会社として養っていているのかなど常に気にしているようだった。

ここまで取締役の方が従業員の方とコミュニケーションをとっている会社は他にないのでもないかと感じた。会社の売り上げだけでなく、従業員のことも同じくらい大切に考えていることがよく伝わった。

### ③大学古本募金

VALUE BOOK では大学古本募金も行っている。大学古本募金とは、卒業生、教職員、在校生、保護者の方から送られた本の買い取り金額が各大学への寄付金になるというプロジェクトである。このプロジェクトに法政大学も参加している。法政大学の古本募金は、家計の急変した学生の支援につなげている。

こんなにも素晴らしい取り組みがなぜ学生である私たちに知られていないのかとても不思議であった。本を売る機会は学生にもあるはずである。売った本の利益が寄付になるなら、興味を持つ学生も多いはずである。このような取り組みが学内で知られてほしいと強く思った。

### (3) NPO 法人リベルテ

この NPO 法人は VALUE BOOK の寄付の仕組みである、FUREFUREBOOKS でつながっていた。鳥居さんはよくここに顔を出すようで、リベルテの方々と親しげに話しているのが印象的であった。

### ①FUREFUREBOOKS

NABO が店頭で不要になった本を募り、集まった本の査定額の 100%または、店頭での販売金額の 70%を近隣の NPO 団体に寄付するプロジェクトである。

### (4) 会社の在り方について

以前から疑問に思っていたことを質問した。

### ①企業と NPO との違いについて

まず、企業である VALUE BOOK は、NPO 法人との違い

⇒企業を出すことが目的であり、NPO 法人は社会貢献をすることが目的である。

ここで企業である VALUE BOOK は NPO 法人などへの支援をどうして行っているのか  
⇒会社として続けていくうえで、社会貢献は大切なことであると考えている。

私たちは地球上にいて、そこで生活をしている。地球環境が悪化したら生活がまま鳴らなくなる。そのため地球環境と社会貢献をしていきながら、会社として利益を求めていくべきだと考えている。

ステイクホルダーを広くとらえないと今後会社としてやっていけないと感じている。

### ②コンセプトについて

VALUE BOOK は本を通じて世界をよくすることをコンセプトとして掲げている。これを踏まえて、真のコンセプトについて考えた。

まず、分かりやすい NABO から考えた。NABO はスターバックスコーヒーからヒントを受け、本の第三の場所を提供すること。NABO は隣人という意味がある。実際に隣人の方々が毎日のように集まり、井戸端会議を行っている。地域の方々と VALUE BOOK の方々との距離が近くコミュニケーションをよくとっていることが伝わった。NABO を通じて本を人がつながっているように感じた。また、NABO では毎日イベントを開催している。本のある空間で集まることで、日常に本のある生活を提供しているのだろうと考えた。

次に VALUE BOOK としてのコンセプトを考えた。これは一つに絞ることができなかった。

一つは本を通じて人と人をつなぐこと。FUREFUREBOOKS で寄付を通じて、ブックバスでさまざまな地域をまわることで、NABO を通してなど VALUE BOOK が行っているプロジェクト全般が本だけでなく人もつないでいるような印象を受けた。

二つ目は、新たな本の居場所を作ること。今までの読まれなくなった本は売られるなどしてきた。VALUE BOOK は本の買取販売だけでなく NABO のようにカフェのような空間で本を楽しめたり、本を通じて寄付を行えたりと本が活躍する分野が広がっている。そのため VALUE BOOK は本の新たな居場所を提供しているのではないかと考えた。

これを鳥居さんにお話したところ、鳥居さんの見解をお話してくださった。VALUE BOOK はさまざまな形で寄付を行っている。本の寄付者に自分が寄付した本がどのように使われるのかを伝えることで、本をリユースしているプラットフォームと一緒に乗っている感覚を味わってほしいと話していた。本の行方を伝えることで、自分が本のリユースの輪の中に入っていること、参加していることを感じてほしいようである。

#### (5) フィールド調査を終えて

今回 VALUE BOOK を見学し、その企業が一番何を提供したいのか改めて考える機会になった。また、これからの会社は地域の方々とのつながりや業界全体だけでなく現在の社会全体を見て、広くステイクホルダーを見ることが大切であることがよくわかった。

#### (6) 参考文献

VALUE BOOK ホームページ最終閲覧日 2月 22日：<http://corporate.valuebooks.jp/>

NPO 法人リベルテ最終閲覧日 2月 22日：<http://npo-liberte.org/>